

小学校低学年にも伝わる戦争の絵本

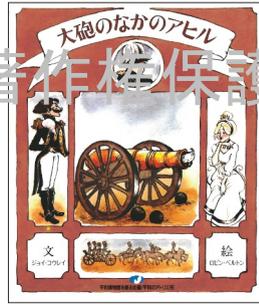
他者を認めず、争うことのみにくさを、わかりやすく伝えます。



『どうぶつ会議』

文/エーリヒ・ケストナー
絵/ワルター・トリヤー
訳/光吉夏弥 900円(岩波書店)

人間たちの会議が失敗に終わり、また戦争が始まろうとしています。それを聞いた動物たちは世界中から集まり、人間の子どもたちのために会議を開くことにしました。抵抗する大人たちに対し、動物たちは最後の手段に出ます。



『大砲のなかのアヒル』

文/ジョイ・コウレイ
絵/ロビン・ベルトン
編/平和博物館を創る会
1,500円(平和のアトリエ)

町の近くで、兵隊が戦争を始める準備をしていました。大砲を撃とうとしたところ、中にアヒルがいて撃てません。アヒルが出てくるまで停戦としましたが、その間に兵隊たちは町の人と仲よくなって、戦争をしなくなりました。



『青いかいじゅうと赤いかいじゅう』

作/デイビッド・マッキー
文/きたざわきょうこ
1,500円(アー二出版)

高い山を隔てて、青いかいじゅうと赤いかいじゅうが住んでいました。穴を通しておしゃべりしていた2匹ですが、ある日ケンカを始めてしまいます。投げ合った石が山を削って、とうとうお互いに顔を見ることになります。

『なぜ あらそうの?』

作/ニコライ・ボポフ
1,300円(BL出版)

1本の花を手にしたカエル。そこにネズミがやってきて花を奪いました。それからたくさん仲間たちが出てきて、戦いを始めます。戦車や大砲で撃ちあい、やがて花が1本もない荒れ果てた風景になります。文字のない絵本です。



『キンコンカンせんそう』

作/ジャンニ・ロダーリ
絵/ベフ
訳/アーサー・ピナード
1,500円(講談社)

戦争が長く続き、大砲をつくる金属がなくなり、国じゅうの鐘が集められました。そうしてつくられた巨大な大砲を撃つと、「キン!コン!カン!」と鳴りました。そして、敵からも「キン!コン!カン!」と聞こえてきました。



『6わのからす』

作/レオ・レオーニ
訳/谷川俊太郎
1,500円(あすなろ書房)

麦をついばも6羽のカラスを追い払おうと、農夫はかかしを立てました。それを見たカラスたちは、恐ろしい姿の鳥の凧をつくり空にあげました。対抗していくうちに、フクロウが間に入って話し合いをすすめます。



『せかいでいちばんつよい国』

作/デイビッド・マッキー
訳/なががわちひろ
1,500円(光村教育図書)

大きな国はまわりの国をどんどん征服して、とうとう小さな国がひとつだけ残りました。攻め入ったその国には、兵隊がいませんでした。戦争にならないどころか、兵士たちをお客のように歓迎し、一緒に過ごすようになります。





著作権保護コンテンツ

絵本作家さん！ こんにちは！

この人にあれもこれも



「ふたごのしろくま」シリーズ(講談社)などでおなじみ!

ひろし
あべ 弘士さん

ぼくが旅に出る理由

動物園の飼育係を長年務めたあべ弘士さん。

職場を辞めてからは、世話をした動物たちが実際に住む場所へ訪れる旅を続けています。

在住の旭川から都内へ出張中のはざまをキャッチし、お話をうかがいました。

撮影／石川正勝 取材・文／菅原千賀子

旅で得られる最大の収穫は「旅に出る」ということです。

25年間飼育係を務めた動物園を辞めたとき、ぼくは48歳でパスポートを持っていませんでした。生きものが相手の仕事だと、旅行なんてまったくできなかったのです。学会や勉強会などで国内の動物園に出かけることはあっても、発表を終えるとほかの動物園を次々に視察するよるな行程。これは旅行ではなく仕事だよ。長期休暇なんて夢のまた夢だったから、動物園を辞めるとすぐにパスポートを取り、念願のアフリカへ出かけました。世話をした動物たちが実際にすんでいるところを、ずっと見てみたかったからです。

以来、世界中のいろいろなところを旅しています。オーストラリア、ロシアのアムール川、北極探検。一昨年は南米のギアナ高地にも。

旅の最大の目的とは、旅に出ること。つまり、出ること自体が収穫なわけ。取材のための旅に出たことは一度もありません。

ぼくは旅に目的を持っていきません。けれど、予感は携えていく。動物や自然に関する知識はあるから、旅先で何に会えるかなんとなくわかります。だけど、どこでどんなシチュエーションで会えるかは予測不能。予感があっても取材はしない。これがぼくの旅のスタイルなのです。

写真で
見る

特 集

著作権保護コンテンツ おはなし会 の舞台裏



おはなし会をしてみたいけど、みんなはどんなふうに行っているのでしょうか？
どんな準備が必要なの？ 当日の流れは？ という疑問にドキュメンタリー形式でお伝えします。
会を運営していく上で必要になってくる活動費の助成金申請についてもご紹介します。

撮影／石川正勝 取材・文／村上早苗 (P48～51)



岡田清香さん

山崎睦美さん

おはなしの 贈り物

毎月メンバーが、銘々
読みたい絵本を持ち寄
り紹介し合います。今
回の親子ふれあい広場
でのおはなし会の担当
は岡田さん、山崎さん
の2人です。

岡田さんたちが所属しているのは、子どもたちの健やかな成長を願い、舞台芸術鑑賞や遊びや文化体験などさまざまな活動を行っている「NPO八王子子ども劇場JOYCCO」です。八王子子ども劇場は37年の歴史を持ち、約150人の会員がいます。その中で、絵本が好きな仲間5

Part 1

Case 1

子育て支援センターで
乳幼児に読みきかせ



1 会の1時間前に集まって 当日の打ち合わせ

人が集まって「おはなしの贈り物」というおはなし会グループをつくりました。最初は市の図書館におはなし会をさせてもらえるよう掛け合い、月に1回のおはなし会が実現。今年で13年目になります。6年前からは親子ふれあい広場でのおはなし会もしています。



行きつけの喫茶
店で、打ち合
わせ開始。

季節や行事に合わせてプロ
グラムを組み立てています。

手遊びはアヒルの手袋です。
親子一緒に楽しめます。



DATA

開催日時 3月30日 14:00～

時間 30分

対象 乳幼児

場所 八王子市子ども家庭支援センター
親子ふれあい広場

人数 13人

列車は東ドイツ領に入り、車掌の女性がこわい顔をした

安野光雅さんの「旅の絵本」シリーズは、世界中で子供から大人まで、あらゆる人たちに愛されているマスターピースだ。字のない絵本の中にすべてがあつて、かつてあつた光景、いまも見られる景色、私たちがよく知っているお話、天才画家たちによって描かれた風物、それらがみんな道の途中に描かれていて、見ていると時間を忘れてしまう。

「旅の絵本」を旅する」という気宇壮大なタイトルをいただいても、「旅の絵本」以上に上手に「旅すること」など、私にはできそうにない。

それでも「旅の絵本」を眺めていると、懐かしい旅のあれこれ思い出す。遠い異国の街への憧れをつのらせた幼い日の読書や、昔は貴重だったエアメールの感触なども思い出したりする。だから、せっかくの機会なので、そんな個人的な思い出を、「旅の絵本」から出発したりまた戻ったりしながら、ゆるゆる書いてみようと思う。

「旅の絵本」のいちばん初めは、旅人が海から北欧に上陸するシーンで幕を開ける。トナカイのいる水辺の風景はとても美しい。私はまだ北欧を旅したことがないので、そこはいまだに憧れの地だ。北欧と言えば、ムーミン、それに長くつ下のピッピ

や、やかまし村の子どもたちが思い浮かぶ。

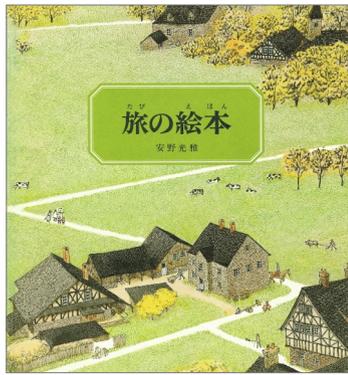
この第一巻は（中部ヨーロッパ）となつており、私自身が旅したことのある国を挙げるなら、ドイツとフランス、スイスの一部あたりが該当する

新連載

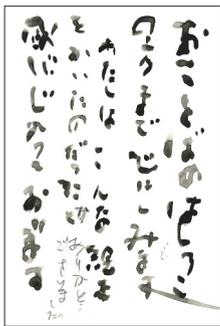
「旅の絵本」を旅する

中島京子

安野光雅さんの『旅の絵本』は、ヨーロッパやアメリカなどを旅する文字のない絵本です。そんな絵本の中を、作家で絵本にも造詣の深い中島京子さんが旅をします。



『旅の絵本』
作/安野光雅
1,400円（福音館書店）



連載のスタートにあたり、安野光雅さんからおハガキをいただきました。

だろうか。

初めて海外旅行をしたのは一九八三年の夏だった。父が仕事の関係でフランスにいて、ちょうどそのころ、姉も南仏で行われたフランス語の講習に参加していたので、夏休み母と私が追いかける形で出かけていったのだった。私は大学二年生で、家族で旅行するなんて、もう最後に

なるかもしれないと思った。

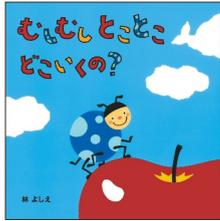
ひと月ほどの滞在の中でも、両親と分かれて、姉と二人で出かけたドイツ旅行はちよつとした冒険だった。西ベルリンに住んでいる従姉に会うために、二人だけで列車の旅を敢行したのだった。

列車はパリからロレーヌ地方を抜け、ハノーファーを経由してベルリンに至る経路だった。いまでは知っている人も少ないかもしれないけれど、ベルリンは当時、地理的には東ドイツ領の中にあり、西ベルリンはその中にぽつんと置かれた西ドイツの飛び地だった。ハノーファーは西ドイツの最も東寄りの都市の一つで、列車はここを過ぎると東ドイツ領に入る。森の続くドイツらしい景色を車窓から眺めていたら、カツカツカツカツと軍靴を踏み鳴らすような音がして、車掌の女性がやってきた。メルケル首相をもっと大きくこわくしたみたいな人で、紺色の制帽とパンツスーツの制服をまとっていた。彼女は私と姉に、いかめしい調子で何か言った。ドイツ語だった。何にもわからなかった。

コンパートメントは三人ずつ向き合う形の六人がけて、私たち姉妹の正面には、髪の長い若い男性が座っていた。制服の女性は、私たちに話してもらちが明かかぬと思ったか、ヒッピーみたいな雰囲気その男性に向かって何やらまくしたて始めた。手を振り回しながら、わあわあ言うの

『むしむし とことこ どこいくの?』

青い小さな虫が、とことこたどりついたのはリンゴの上かと思ったら「リンゴ虫」！一緒にとことこ、スイカの上かと思ったら「すいかえる」、丸太の上かと思ったら「まるたぶた」。どんどん仲間が増えて、さて次は、何が出てくるかな？



作/林 よしえ
1,000円 (アリス館)

『ひび割れ壺と少年』

少年は、ふたつの壺を棒の端にさげて、水を運っていました。ひとつはひびのない壺、もうひとつは内側にひびが入っていたので、水は半分になってしまいます。ひび割れ壺は、恥ずかしく、悲しく思っていました。少年は「ありがとう」と言ったのです。



文/松本 純
絵/大村竜夫
1,300円 (アートデイズ)

『ほんとうはなかよし エルモアとアルパート』

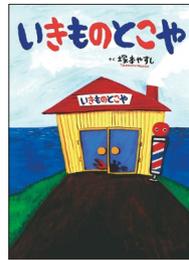
ひとりっ子のエルモアは、おもちゃもテレビもお菓子もパパもママも自分だけのものでした。でもある日、すべてが変わってしまいました。弟の出現にとまどい、振り回されながらも愛情を感じていくエルモアの様子が描かれています。



作/ローレン・チャイルド
訳/明橋大二
1,600円 (1万年堂出版)

『いきものとかや』

ぼさぼさ髪のお客さんでいっぱい「いきものとかや」。髪を刈ってくれるのはいろいろな生きものたちです。いったいどんな髪型になるのでしょうか？ かわいい髪のお客さんにカマキリは困ってしまい、みんなで作ることにしました。



作/塚本やすし
1,300円 (アリス館)

『しもばしら』

しんと冷えた冬の朝には、地面に立つしもばしらを見かけます。暖かくなるとしもばしらは倒れて、湿った地面だけが残されます。なぜできるのか？ まわりはどうなっているのか？ 冷蔵庫を使った実験の紹介から、新しい発見もできそうです。



写真/細島雅代
文/伊地知英信
1,500円 (岩崎書店)

『からあげ』

今日はクリスマス。「かしのからあげ」を作っているお母ちゃんに「クリスマスやったらチキンやで」というケンぼうは、雨にぬれて寝こんでしまいました。ケンぼうは恐ろしい夢を見ましたが、夢からさめてひと言「からあげたべたい」だってさ。



作・絵/あおきひろえ
1,400円 (アリス館)

『開運えほん』

「玄関にある飾りは何？」門松をさして、はなちゃんはおばあちゃんに尋ねます。「としがみさまを迎える目印だよ」。かがみもちやお雑煮も、としがみさまに疫病神を追い払ってもらうための開運術です。はなちゃんは、よい年を迎えられるでしょうか？



作/かんべあやこ
1,300円 (あかね書房)

『にがい おくすりのめるかな』

病気になった子ブタのブータは、にがいお薬が苦手です。怪獣の子どもたちが持ってきた甘い魔法のお薬を飲んだブータは、怪獣になってしまいました。泣いているブータの前に、ソフトクリームのおじさんがあらわれました。



作・絵/深見春夫
監修/小山博史
1,300円 (岩崎書店)

『はみがきれいっや しゅっぱつしんこう!』

たっくんは歯磨きが大嫌い。でも、歯磨き列車は出発進行ー！ たっくんのお口をしゅっしゅっ。前の歯駅のにんじんもわかめもしゅっ、奥の歯駅のとうもろこしもお肉もとれました。たっくんのお口びっかびか。また来るねー。歯磨きが楽しくなります。



作/くぼまちこ
1,000円 (アリス館)

『サムとデイブ、あなをほる』

おじいちゃんの家の庭で、サムとデイブはすごいものを見つけるまで穴を掘ることにしました。下がダメなら横に、それもダメなら斜めに進めば、宝物があるような気がします。ふたりの穴掘り探検の様子をじっくり見てみましょう。



文/マック・バーネット
絵/ジョン・クラッセン
訳/なががわちひろ
1,500円 (あすなる書房)

著作権保護コンテンツ

2014年12月〜2015年2月に発売された
新刊検本の中から、読みきかせにもおすすめの100冊を
選びました。子どもたちとすてきな時間を過ごしてください。
ブックセント応募はアンケート用紙、またはウェブから。

もう読んだ？

ザンブプレゼント

新刊
100!!

※出版社五十音順
📖 マークは乳幼児から、
🎵 は中・高校生も楽しめる本です。